



吉崎別院便り

バラバラでいっしょ！

になれるところ

【院議会を開催】



院議会の様子

『吉崎復興』総合整備事業募財現況などを報告

1月21日、吉崎別院会館にて「院議会」が開催されました。福井、大聖寺、小松の3教区から選任された院議会議員17名の他、責任役員2名とオブザーバー4名が出席をし、総合整備事業第4期工事についての報告を五辻輪番から受けました。報告では、寄付金の収納現況と募材方途についての経緯と展望などが示されました。これを受け、3教区の教区会議長よりそれぞれの教区での募財の見通しなどが説明され、今後も各寺院と門徒会が一丸となって募財奨励に尽力していくことが満場一致で議決されました。

また五辻輪番より、境内地内「宝物館（築約270年・現在の茶所）」の柱の傾きとその地盤の構造的問題も提起され、（詳細については次頁）既に本山宗務当局へご依頼している緊急営繕工事助成金の必要性和専門家による詳しい調査の推進などが提言されました。

本堂内と宝物館の現場視察



院議会閉会后、設計管理を委託している山下社寺設計・山下氏と工事業者・豊島建設による、本堂の修復工事の進捗状況の説明と現場視察がありました。現場視察での議員の皆様は、本堂内の隅々まで関心を向けている様子でした。

上写真・免振・パッキンを手に取る各議員、中写真・山下氏に質問をする高村議員、下写真・土台について説明を受ける各議員

真宗大谷派、吉崎別院宝物館地盤状況

盛土部分と切土部分にまたがって建物が建っている状況の場合、地震時、被害が集中します。建物建設時より百数十年の経過はして、安定はしていますが、災害時危険な地盤である事には間違いはありません。

この地盤は平たんにはなっていますが、建設当時は屋根地形部分を削り、(切土)、削り取った土砂で谷地形部を埋めております(盛土)、ボーリングデータで明確。

切土量と盛土量が過不足のないように造成計画がしてあるものと判断します。

切土だけの所、盛土だけの所、切土と盛土が接している所ができることになり、

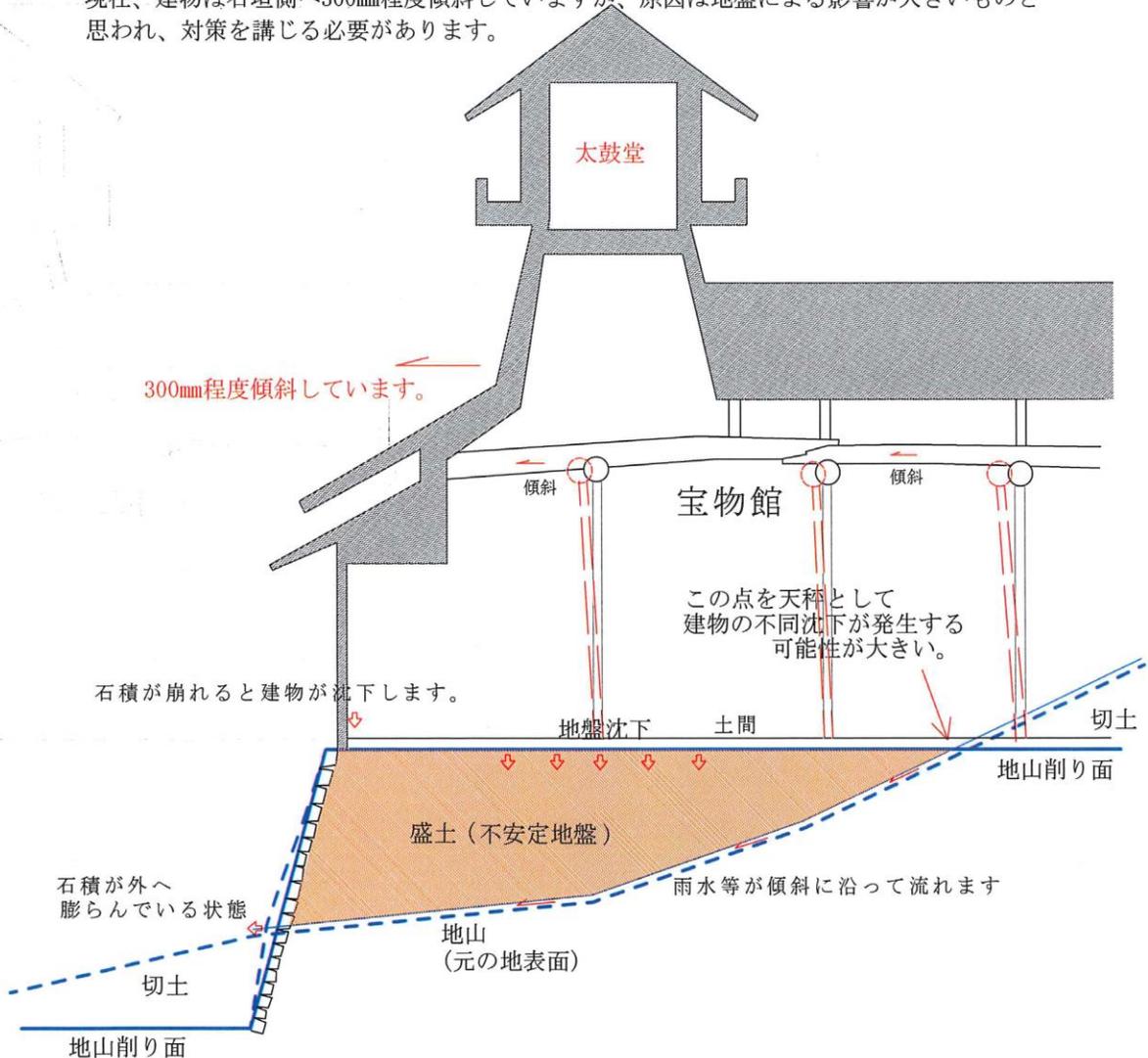
下図の交点付近に不同沈下が起きやすいため、傾いたり、崩れ落ちる原因となります。

どうしても切土と盛土境界付近の盛土側に亀裂が生じたり、沈下する現象が集中し地盤が変状することによって多くの建物が被害を出しております。(熊本地震例)

また、雨水は切土面を流れるため、盛土が山砂のため、水と混合して少しづつ石垣の方へ流れ出ています。

そのため、石垣の中腹が外側へ膨らんでいることが現状で確認できます。

現在、建物は石垣側へ300mm程度傾斜していますが、原因は地盤による影響が大きいものと思われ、対策を講じる必要があります。



現状調査

株式会社 山下社寺設計

一級建築士 山下 幸雄
大臣登録 85514号

